

# 里山広葉樹をめぐる状況



令和7年12月

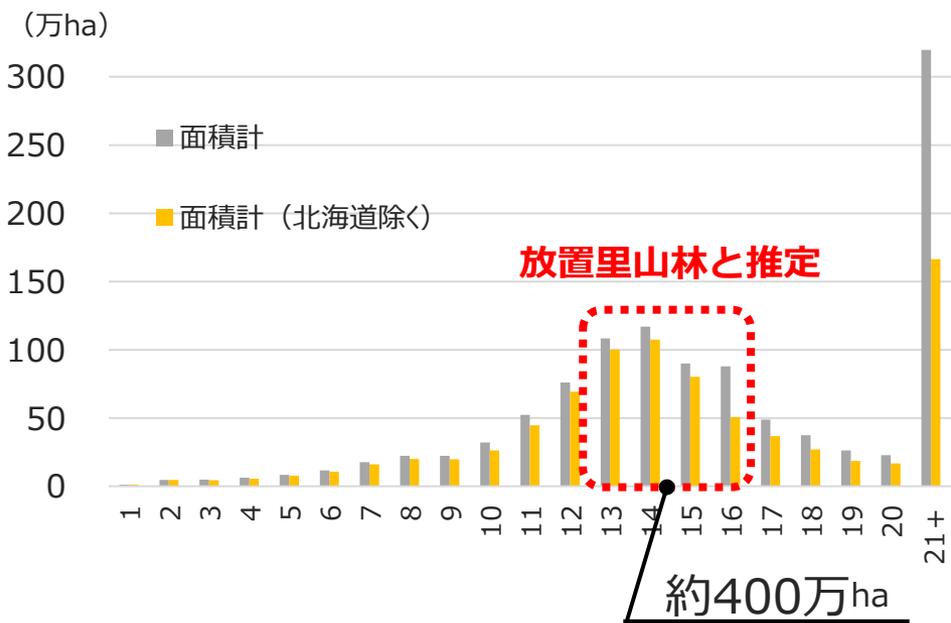
林野庁 里山広葉樹利活用推進チーム



# 1 危機に瀕する里山広葉樹林 ②

- 昭和40年代に入り、里山林は燃料革命等により利用されなくなり、放置され**高齢化・大径化が進行**。
- **放置された里山林は約400万ha存在すると推計**され、「ナラ枯れ被害の拡大」、「野生動物との軋轢の増加」、「竹林の侵入拡大」など、**人々の暮らしや生態系へ様々な悪影響が生じている**。
- これは、日本の生物多様性が直面する危機の一つである「**自然に対する働きかけの縮小(=アンダーユース)による危機**」とされる。

## 放置里山林の面積の推計



昭和35（1960）年以降伐採されていない広葉樹天然林  
（61年生以上～80年生（13～16年齢級））

出典：林野庁「森林資源の現況（令和4年3月31日現在）」

## ナラ枯れ被害の拡大

里山林の放置によりナラ枯れを媒介するカシノナガキクイムシの繁殖に適した大径木が増え、被害が拡大し、風致や防災等の公益的機能が低下する懸念。



## 野生動物との軋轢の増加

里山林における人間活動の低下や大径木の増加は、サル、シカ、イノシシ、クマ類等の分布の拡大、生息数の増加等につながり、農業被害といった人との軋轢が増加。

## 2 国産広葉樹への関心の高まり ①

- 我が国の広葉樹需要量は全体で少なくとも年間約2,400万m<sup>3</sup>で、このうち国産材の供給は約250万m<sup>3</sup>と1割程度
- 輸入広葉樹の製品用途は20%以上であるのに対し、国産広葉樹の製品用途は5%以下と僅かであり、国産広葉樹は量的にも質的にも有効に活用されているとは言い難い状況。

日本の広葉樹の需要量 ※原木換算値

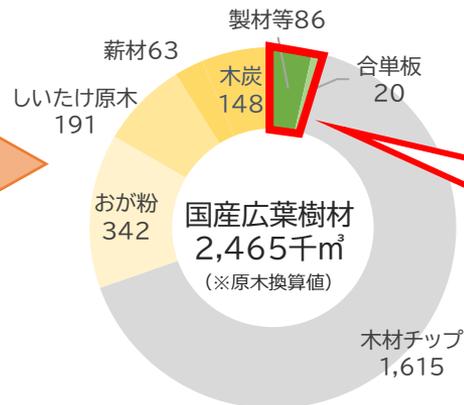


■ 木材チップ ■ 薪材 ■ 木炭 ■ 丸太 ■ 製材・加工材 ■ 合板 ■ 単板

資料:財務省「貿易統計」より林野庁作成

注1:輸入量は、「木材需給表」の丸太換算率を使用して算出

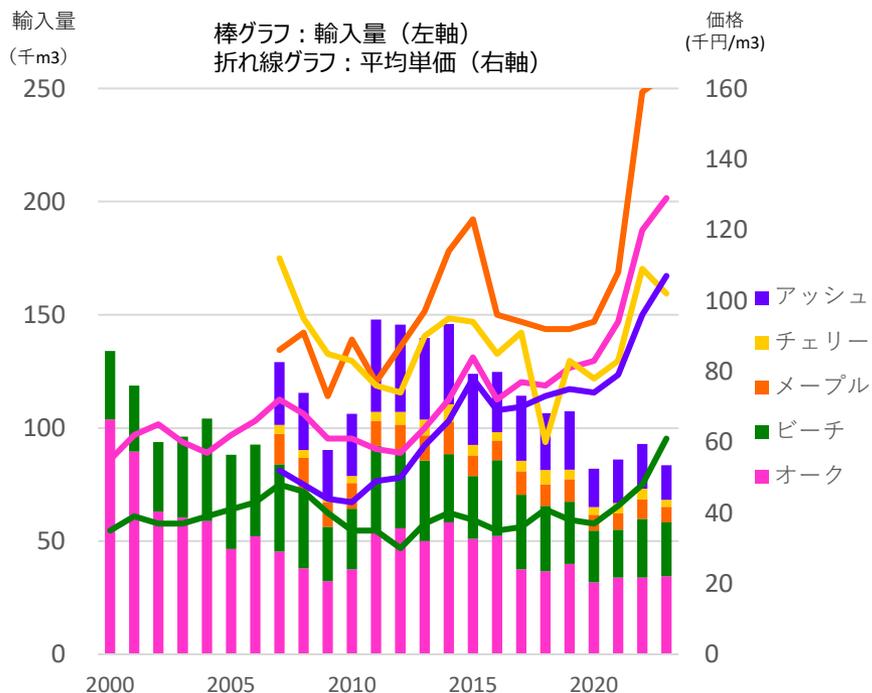
注2:貿易統計について「針葉樹以外のもの」を抜粋(パレットは含まず)



## 2 木材としての国産広葉樹への期待の高まり ②

- 一方、輸入広葉樹は価格が急騰しており、家具製造等の業界から国産広葉樹への供給ニーズが高まっている。
- その際、国内の広葉樹林の資源内容や近年のエシカル消費への意識の高まり等を背景に、従来の樹材種だけでなく、これまで未利用だった虫害被害木も含め、積極的に里山広葉樹材を利用する動きも見られるところ。

### 主要輸入広葉樹(製材品)の輸入量、平均単価



※2007年に輸入の品目分類の変更があり、メープル・チェリー・アッシュが追加

資料：財務省「貿易統計」より林野庁作成

### 国産広葉樹の利用事例

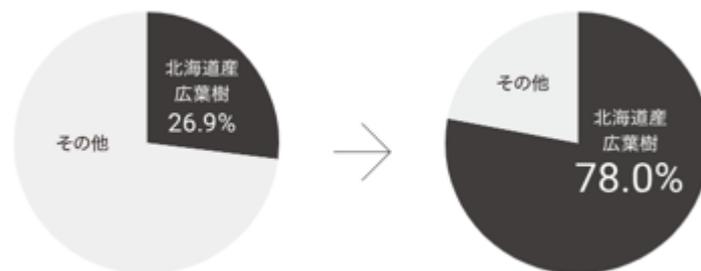


小径木や端材等を利用した家具  
(旭川家具工業協同組合)  
(写真：(株)カンディハウスHP)



ナラ枯れ材を利用したスツール  
(アパレルブランド“ファクトリエ”とカリモク家具(株)のコラボ商品)(写真：ファクトリエHP)

- ✓ 旭川家具では、国産広葉樹への転換を進め、道産広葉樹の利用率が、10年間で3割から8割に上昇。



資料：旭川家具工業協同組合ウェブサイト

### 3 国産広葉樹利活用と再生に向けた地域の取組(岐阜県飛騨市の事例)

- これまで活用されてこなかった里山広葉樹を地域の重要な資源として捉え、地域の川上から川下までの関係者の連携により、途切れていた広葉樹のサプライチェーンを再構築しようとする取組みが行われている。

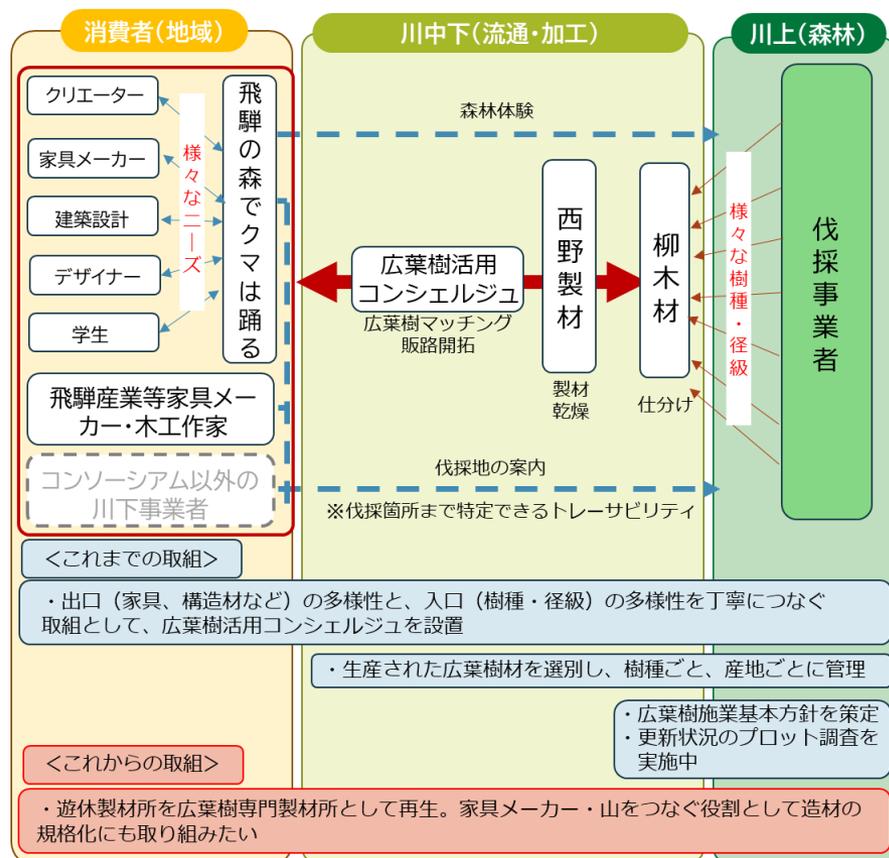
#### 現状と課題

- ・ 飛騨市はミズナラやブナに代表される豊富な広葉樹資源を有する一方、市内で伐採される広葉樹のうち94%がチップ用として安価に市外へ流出。
- ・ 地域の広葉樹に新しい価値を生み出す必要。

#### 対応方向

- ・ 飛騨市は広葉樹のサプライチェーン構築のため、川上から川下の事業者と行政からなる「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を立ち上げ。
- ・ 広葉樹活用コンシェルジュを配置し、流通拠点にある広葉樹原木と家具メーカー等の作り手をマッチングさせ、販路開拓に取り組むなど、広葉樹の新たな価値創造を実現。

#### 飛騨市広葉樹活用コンソーシアム



## 4 里山広葉樹利活用推進会議の開催と提言(令和6年度)

- 本年3月、有識者による里山広葉樹利活用推進会議を開催し、今後の里山広葉樹の利活用に向けて必要な提言をまとめる。
- 提言では特に、**現在、地域の点にとどまっている広葉樹の取組を効果的なサプライチェーンにまで引き上げることができれば、広葉樹の利活用を通じた里山広葉樹林の再生が可能とされ、新たな価値が示された。**

### 里山広葉樹林の再生が生み出す新たな価値

#### ① 国民目線から ~生物多様性の回復~

我が国が直面している生物多様性の危機の一つである「アンダーユースによる危機」を脱し、生物多様性の回復に資する。



#### ② 地球市民として ~地球環境の保全~

輸入広葉樹を国産に置き換えていくことによる海外の森林生態系の保全や、輸送距離の短縮によるCO2排出量の削減に貢献。



#### ③ 地域住民目線で ~地方創生~

里山広葉樹は地域で多様性をもつことから、その再生に取り組むことは、例えば小規模製材工場の再生など、地域の産業の結びつきを取り戻すことにつながる。



#### ④ 林業・木材産業の視点から ~産業の持続性の向上~

(川上)針葉樹供給以外の道が開けることによる素材生産の多角化

(川中)輸入広葉樹材から国産広葉樹材への切り替えによる為替変動リスクの低減

(川上~川下)持続可能性を求める消費者の意向にかなう商品を提供することによる経営の持続性向上



## 4 里山広葉樹利活用推進会議の開催と提言(令和6年度)

### 里山広葉樹利活用・再生プラットフォーム

(提言より)

…森林側がマーケットに積極的にアプローチすることで、需要側のニーズの発掘と里山林への理解を促進し、最終的には伐採地から生産される少量・多樹種の広葉樹材全てを利活用(プロダクトアウト)できるようにするため、**基盤となる情報を共有する場としてプラットフォームを設立**する。

### プラットフォームの構成イメージ

